

### 3 大学剣道選手の心理的相違

男子部員を対象として

小森富士登\*<sup>1</sup> 武内 政幸\*<sup>2</sup> 竹内 幸子\*<sup>3</sup> 右田 重昭\*<sup>1</sup>  
井島 章\*<sup>4</sup> 岩切 公治\*<sup>4</sup>

#### Differences in Psychological Kendo Athletes between Three Universities Kendo Athletes: —For male kendo athletes—

Fujito Komori\*<sup>1</sup>, Masayuki Takeuchi\*<sup>2</sup>, Sachiko Takeuchi\*<sup>3</sup>  
Shigeaki Migita\*<sup>1</sup>, Akira Ijima\*<sup>4</sup>, Kimiharu Iwakiri\*<sup>4</sup>

#### ABSTRACT

We compared and examined the level of anxiety and confidence between Kendo athletes at three Japanese universities. To test these psychological dimensions, the following questionnaires were used in this study.

State-Trait Anxiety Inventory (STAI), Sport Competition Anxiety Inventory (SCAT), and Sport Self Confidence Inventory (SSCI) have been used broadly for Sport psychology in the United States. We conducted ANOVAs and got the following findings.

- 1) As far as the degree of right before the game is concerned, there was a significant difference among the kendo athletes of the three universities.
- 2) There was no difference in the degree of fear during the game among the three universities and among the elite kendo athletes or kendo athletes of the universities.
- 3) There was a significant difference in the degree of confidence in the game between the elite kendo athletes and the kendo athletes of the three universities. In the case of K University, it was recognized that the elite kendo athletes were more confident than the kendo athletes.

Portions of this paper were presented at the 1998 Japanese Academy of Budo (4-5 September 1998, Keio University)

---

\*<sup>1</sup>国土館大学, \*<sup>2</sup>大東文化大学, \*<sup>3</sup>桜美林大学, \*<sup>4</sup>国際武道大学

## [目 次]

1. 緒 言
  2. 研究方法
    - (1) 被検者
    - (2) 質問項目及び測定方法
    - (3) 分析方法
  3. 結果及び考察
  4. まとめ
- 引用・参考文献

### 1. 【緒 言】

剣道においては、もともと生死を賭けた命のやりとりから成り立っているため、一瞬において勝敗が決定されることが多いことから、未発の事物の察知、相手の心・動作に対する読みが要求されるので視覚からの情報が不可欠である。そして、相手のつま先から頭の先までのあらゆる動きの情報を入手しなければならないため、一点に凝視せず全体に注意を配分するように、いわゆる遠山の目付で相手を捉えることが重要であるといわれている。また、勝負を前提とするときは、「一眼、二足、三胆、四力」ということがいわれており、ここでの3つめの胆というのは度胸、気力、精神を意味している。高野佐三郎は胆について、「人は胆力があって初めて物を見るの明も出来れば、又、それから強い活動も生じて来るものである」と述べている。そしてまた、古来より剣道では四病（驚、懼、疑、惑）は心境を乱し、止心は心の働きを阻害するものとして重要な戒めとしている。このように精神的要素、即ち心理的側面に大きく影響されることは周知の事実である。特に、実際の競技場面における勝敗への影響は、技術的側面及び体力的側面とともに心理的側面の比重も極めて高いと思われる。

競技スポーツにおいては、心理的要素・技術的要素・体力的要素の三位一

体の充実がよりよい成績を生み出すための必要不可欠な前提条件であることは誰もが認めることであるが、この3要素により一層の科学的研究の支援が重要視されている。現在のスポーツは、体力学・心理学・医学・生理学・栄養学・流体力学・繊維化学等々の科学の支援なしでは考えられない程高水準にある。中でも近年、メンタルマネジメント・メンタルトレーニングやイメージトレーニングといった心理的側面をトレーニングすることに関連した言葉をスポーツの世界で頻繁に目や耳にするようになってきた。これは、それだけ競技場面における心理的側面の影響や役割の重要性に対する認識が高まってきたといえる。

日本でスポーツにおける心理的な問題の研究が行われるようになったのは、1950（昭和25）年に日本体育学会が発足してからと言える。そして、体育心理学の分野で次第に研究が行われるようになった。その後、1967（昭和30）年に日本武道学会が誕生し、柔道・剣道・空手道等の適性論や意識分析等をテーマとする心理学的研究が報告されるようになった。更に、1974（昭和49）年にスポーツ心理学会がスタートしてからスポーツにおける競技心理等の研究が盛んに発表されるようになった。

日本体育協会スポーツ科学委員会も心理研究班を中心にして、東京オリンピック時に選手の「あがり」に対する研究をはじめ、一流スポーツ選手やコーチング等の心理的諸問題の調査・分析等を行ってきた。

しかし、当初はこういったスポーツ心理学的な知識や普及に現場のコーチや選手はあまり関心を持たなかった。船越<sup>3)</sup>は、「どの学会においても実践との結びつきが希薄であり、研究者と教育・現場との間で葛藤が多かった。研究側からは現場の協力が得られない。現場からは勝手な論を振り回すだけで実際の用をなさない。ひどい場合はデータの収集のみでフィードバックがない。という不満や怒りがあった」と述べている。また、R, マートン<sup>10)</sup>は、「スポーツ心理学者は、スポーツ心理学の知識がコーチに役立つものであることをよく知っているがほとんどのコーチはそのことに気づかない。この知

識とは、科学的な研究とベテランのコーチや選手の実験経験とが合わさったものである。しかし、なぜコーチはこのような役立つ知識に気づかないのであろうか」と述べている。更に、その理由は「科学的研究報告は、彼らにとってあまりなじみのない科学的用語によって書かれているからである。また、ひとつのまとまった考えを得るには、多くの科学的研究報告書を読む必要があることもあげられよう。さらには、コーチや選手のために研究をわかりやすくすることより学問としての科学研究を生み出すことが強調されているためであろう」と述べている。実際にこのような話は、我々も指導の現場で耳にした。

柔道・剣道は日本古来の武術より発展してきているため、経験に基づく心理面の鍛錬方法があり比較的上記のような考え方は多かったように思われる。佐々木<sup>17)</sup>は、「試合に向けての心理的調整の必要性、あるいは、試合の場における心理的要因と勝敗との密接な関連性について一流の選手やコーチは一般的によく理解しているが残念ながらこれらの理解は経験的なものであり、多くのケースにおいてさまざまな誤りがあった」と述べ、猪俣<sup>18)</sup>は、「たとえば、緊張とあがりを同一視したり、ハードトレーニングによって厳しい状況の中で自然に精神力（根性の意）が強化されると考えたりする」と述べている。

このように、メンタルマネジメント・メンタルトレーニング・イメージトレーニング等の用語を一時のファッション的なものと捉え、安易な受け取り方をしているために、短絡的に心理的側面のトレーニングの効果を判断してしまう等競技現場において十分な理解・認識が不足しているケースも指摘されている。

加えて、心理的側面のトレーニングに関する多くの研究や書籍が公表されているが、競技現場サイドに即した内容のものが少なく、競技指導現場の切実な要求に耐えられず、ややもすると理論的なものだけが先行しているきらいがあることも事実である。

これまでの剣道選手に対する心理的要素に関する研究では、金木<sup>10)</sup>、佐藤<sup>15)</sup> 16)、氏家ら<sup>23)</sup> 24)、小森ら<sup>11)</sup> 12)の剣道選手の性格特性やあがりについての研究が報告されている。また、柔道選手に対しての心理的要素に関する研究では、飯田<sup>8)</sup>、遠藤ら<sup>2)</sup>、船越<sup>4)</sup> 5) 6) 7)、松本<sup>1)</sup>、高岡<sup>18)</sup>、高妻ら<sup>19)</sup> 20)、武内ら<sup>21)</sup>の報告がされている。更に、同じ質問紙を用いて我々<sup>13)</sup> 22)は、大学柔道選手と剣道選手の心理的相違について、不安度・自信度に関する因子分析的研究を報告したものの体力的要素、技術的要素の研究と比較すると比較的少ないと思われる。

そこで本研究は、競技力に必要な心理的要素を明らかにし、メンタルトレーニングの一助とするために、大学剣道選手の心理的特徴や相違性を調査する目的で行った。

## 2. 【研究 方法】

### (1) 被検者

本研究の対象となった被検者は、全日本学生剣道優勝大会の優勝の実績があるK大学男子剣道部員115名（選手群28名、部員群87名）、同大会の上位入賞の実績をもつKB大学男子剣道部員106名（選手群30名、部員群76名）とR大学男子剣道部員64名（選手群17名、部員群47名）の計285名で、年齢は18歳から22歳、経験年数は平均12.77年、標準偏差2.47年であり、それぞれ大学の剣道選手として十分な経験をもっている。

### (2) 質問項目及び測定方法

質問紙は、アメリカでスポーツ心理学研究のために開発され幅広く活用されているState-Trait Anxiety Inventory (STAI) 20項目、Sport Competition Anxiety Test (SCAT) 15項目、Sport Self-Confidence Inventory (SSCI) 12項目の3種類計47項目を用いた。これらの3種類の質問紙はTable 1, 2, 3に示した。

不安を測定するために日本語版で標準化され一般的に使用されている検査

にはテイラーのMASがある。シュピールベルガーは、不安を特殊性不安と状況不安に分け、それらを測定するためにSTAIを作成しているが、我が国でもその有意性が確認されるに従い、日本語版標準化の試みが行われ、遠藤ら（1976）による日本語版STAI、清水ら（1976, 1981）による大学生用日本語版STAI、岸本ら（1982, 1983, 1986）による日本語版STAI、中里（1982）による日本大学版STAI等がある。また、大村（1985）による日本大学版STAI-IIは、SEQ-SRAI項目に対する独自の日本語訳を持ちながら、信頼性、妥当性ともに満たしたとして公表されている。スポーツ場面に特有な不安を測定するために、マートンはSCATを作成しているが、遠藤や猪俣らによって日本語版の標準化がなされている。

各被検者は、これらの日本語に翻訳された質問紙の質問項目に対してそれぞれの評価尺度を用いて回答を行った。日本語に翻訳された質問紙はTable 4, 5, 6に示した。測定方法は、STAIでは「非常に当てはまる」を4, 「適度に当てはまる」を3, 「いくらか当てはまる」を2, 「全く当てはまらない」を1, SCATでは、「よくこのように感じる」を3, 「時々このように感じる」を2, 「ほとんどのように感じない」を1, SSCIでは、「あなたがどの程度感じるか」を10段階の尺度を用いて行った。そして、回答された結果をSTAIでは1, 2, 5, 8, 10, 11, 15, 16, 19, 20の項目については得点を逆に、すなわち1が4, 2が3, 3が2, 4が1に変換し、SCATにおいても6と12の2項目は3が1, 1が3と変換した。その他は評定どうりの計算方法により得点化した。なお、調査は1997年9月～10月に実施した。

### (3) 分析方法

分析方法は、分散分析法（ANOVA）により質問領域に対する比較を行った。

Table 1.

Your Name: \_\_\_\_\_

## State-Trait Anxiety Inventory (STAI-X1)

**Directions:** A number of statements which people use to use to describe themselves are given below. Read each statement and indicate at the right how feel right before a kendo match, using the scale described below. There are no right or wrong answers. Do not spend too much time on any one statement but give the answer which seems to describe your feelings best.

1-NOT AT ALL      2-SOMEWHAT      3-MODERATELY SO      4-VERY MUCH SO

- |     |                                    |       |
|-----|------------------------------------|-------|
| 1.  | I feel calm.                       | _____ |
| 2.  | I feel secure.                     | _____ |
| 3.  | I am tense.                        | _____ |
| 4.  | I am regretful.                    | _____ |
| 5.  | I feel at ease.                    | _____ |
| 6.  | I feel upset.                      | _____ |
| 7.  | I worry over possible misfortunes. | _____ |
| 8.  | I feel rested.                     | _____ |
| 9.  | I feel anxious.                    | _____ |
| 10. | I feel comfortable.                | _____ |
| 11. | I feel self-confident.             | _____ |
| 12. | I feel nervous.                    | _____ |
| 13. | I am jittery.                      | _____ |
| 14. | I feel "high strung"               | _____ |
| 15. | I am relaxed.                      | _____ |
| 16. | I feel content.                    | _____ |
| 17. | I am worried.                      | _____ |
| 18. | I feel over excited and "rattled"  | _____ |
| 19. | I feel joyful.                     | _____ |
| 20. | I feel pleasant.                   | _____ |

Table 2

Your Name: \_\_\_\_\_

## Sport Competition Anxiety Test (SCAT-X2)

Directions: Below are some statements about how people feel when they compete in sports and games. Read each statement and decide if you HARDLY EVER, SOMETIMES, or OFTEN feel this way when you compete in Judo. If your choice is HARDLY EVER, circle A; if your choice is SOMETIMES, circle B; and if your choice is OFTEN, circle C. There are no right or wrong answers. Do not spend too much time on any one statement. Remember to choose the word that describes how you usually feel when competing in sports and games.

		Hardly Ever A	Sometimes B	Often C
1.	Competing against others is socially enjoyable.			
2.	Before I compete I feel uneasy.	A	B	C
3.	Before I compete I worry about not performing well.	A	B	C
4.	I am a good sport when I compete.	A	B	C
5.	When I compete I worry about making mistakes.	A	B	C
6.	Before I compete I am calm.	A	B	C
7.	Setting a goal is important when competing.	A	B	C
8.	Before I compete I get a queasy feeling in my stomach.	A	B	C
9.	Just before competing I notice my heart beats faster than usual.	A	B	C
10.	I like to competing in games that demand considerable physical energy.	A	B	C
11.	Before I compete I feel relaxed.	A	B	C
12.	Before I compete I am nervous.	A	B	C
13.	Team sports are more exciting than individual sports.	A	B	C
14.	I get nervous wanting to start the match.	A	B	C
15.	Before I compete I usually get up tight.	A	B	C



Table 3

Your Name: \_\_\_\_\_

## Sport Self-Confidence Inventory (SSCI-X3)

Directions: Think about how confident you feel you right now about performing successfully in the upcoming competition. Answer the questions below based on how confident you feel right now about competing in the upcoming contest. Compare your self-confidence on each question to the most confident athlete you know. Please answer as you really feel, not how you would like to feel. Your answers will be kept completely confidential. How confident are you right now about competing in the upcoming contest? Use the rating scale below to indicate your answer.

LOW			MEDIUM				HIGH		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	

1. Compare the confidence you feel right now in your to  
execute the skills necessary to be successful. .....
2. Compare the confidence you feel right now in your to  
make critical decisions during competition. .....
3. Compare the confidence you feel right now in your to  
perform under pressure. .....
4. Compare the confidence you feel right now in your to  
execute successful strategy. .....
5. Compare the confidence you feel right now in your to  
concentrate well enough to be successful. .....
6. Compare the confidence you feel right now in your to  
adapt to different game situations and still be successful. .....
7. Compare the confidence you feel right now in your to  
achieve your competitive goals. .....
8. Compare the confidence you feel right now in your to  
consistently be successful .....
9. Compare the confidence you feel right now in your to  
think and respond successfully during competition. .....
10. Compare the confidence you feel right now in your to  
meet the challenge of competition. .....
11. Compare the confidence you feel right now in your to  
successful even when the odds are against you .....
12. Compare the confidence you feel right now in your to  
bounce back from performing poorly and be successful. .....

Table 4

# 不安度に対する調査表 (STAI-X1) (State-Trait Anxiety Inventory)

指示： 下記の文は、人々が自分自身の状態を言い表すのに使う数々の表現です。それぞれの文を読み、自分の競技の試合直前にどのように感じるかを1「全く当てはまらない。」、2「いくらか当てはまる。」、3「適度に当てはまる。」、4「非常に当てはまる。」の数字の何れかを○で示して下さい。答えは正誤はありません。一つの文に時間を掛け過ぎないようにして最もあなたの感情をよく表している答えを選んで下さい。

	全く当てはまらない。	いくらか当てはまる。	適度に当てはまる。	非常に当てはまる。
1. 落ち着いている。	1	2	3	4
2. 安心している。	1	2	3	4
3. 緊張している。	1	2	3	4
4. 後悔している。	1	2	3	4
5. くつろいでいる。	1	2	3	4
6. 怒っている。	1	2	3	4
7. 怒りうる不安を心配している。	1	2	3	4
8. 休んでいる。	1	2	3	4
9. 心配している。	1	2	3	4
10. 心地よい。	1	2	3	4
11. 自信がある。	1	2	3	4
12. 不安である。	1	2	3	4
13. 神経過敏である。	1	2	3	4
14. 極度に緊張している。	1	2	3	4
15. リラックスしている。	1	2	3	4
16. 満足している。	1	2	3	4
17. 気をもんでいる。	1	2	3	4
18. 興奮している。	1	2	3	4
19. 嬉しい気分である。	1	2	3	4
20. 楽しい気分である。	1	2	3	4

氏 名 (フリガナ)	性 別	男・女	競 技	部		
	年 齢	才	経験年数	年	段 位	段
所 属 (大 学)	大学		学年	年	選手 (公式戦出場)	有・無

実施状況

ほとんど毎日 (週3～4日以上)	ときどき (週1～2回)	ときたま (月1～2回程度)	しない

Table 5

# スポーツにおける不安度の調査 (SCAT-X2)

(Spot Competition Anxiety Test)

指示： 下記の文は、スポーツや試合の競技に人々がどのように感じるかについて述べたものです。それぞれの文を読み自分の競技時に、1「ほとんどのように感じない」、2「時々このように感じる」、3「よくこのように感じる」の数字の何れかを○で示して下さい。答えは正誤はありません。一つの文に時間を掛け過ぎないようにして、スポーツや競技時に普通どのように感じるかを表している答えを選んで下さい。

	ほとんどのように感じない	時々このように感じる	よくこのように感じる
1. 他者と競い合うことは親睦をはかる上で楽しい。	1	2	3
2. 競技前は不安である。	1	2	3
3. 競技前はうまくできないのではと心配である。	1	2	3
4. スポーツ精神をもって競技することができる。	1	2	3
5. 競技時に失敗するのではないかと心配である。	1	2	3
6. 競技前は冷静である。	1	2	3
7. 目標を掲げることは競技において重要である。	1	2	3
8. 競技前に胃がむかむかする。	1	2	3
9. 競技直前に普段より動悸が激しくなる。	1	2	3
10. かなりの体力を要する試合で競技するのが好きである。	1	2	3
11. 競技前はリラックスしている。	1	2	3
12. 競技前は緊張する。	1	2	3
13. 集団競技の方が個人競技より刺激がある。	1	2	3
14. 試合時間を待ちきれず緊張する。	1	2	3
15. 競技前はいつもかなり緊張する。	1	2	3

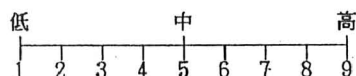
Table 6

# スポーツに関する自信調査(SSCI-X3) (Sport Self-Confidence Inventory Test)

指示：これから始まる対戦でうまく競技する自信が、今現在、どの程度あるか考えてみて下さい。

今後の大会で競技するにあたり、あなたがどの程度自信を感じているかを元に、以下に質問に答えて下さい。あなたの知っている最も自信を持った選手と自分の自信を比べて答えて下さい。

答えるにあたり、「このように感じていたい」ということではなく、あなたが実際にどう感じているかについて答えて下さい。あなたの答えが、研究以外の目的に使用されることは決してありません。これから始まる大会で対戦することに、今どのくらい自信がありますか？ 答えるにあたり、下の数値を使い何れかを選び記入して下さい。



1. あなたの知っている最も自信のある選手に比べて、あなたがうまく競技するために必要な技術を使う能力に、今、どのくらい自信を感じますか？ (1) \_\_\_\_\_
2. あなたの知っている最も自信のある選手と比べて、あなたが試合中、難しい判定を下す能力に、今、どのくらい自信を感じますか？ (2) \_\_\_\_\_
3. あなたの知っている最も自信のある選手と比べて、あなたがプレッシャーの元で競技する能力に、今、どのくらい自信を感じますか？ (3) \_\_\_\_\_
4. あなたの知っている最も自信のある選手と比べて、あなたがうまく作戦を実施する能力に、今、どのくらい自信を感じますか？ (4) \_\_\_\_\_
5. あなたの知っている最も自信のある選手と比べて、あなたがうまく競技できるよう十分に集中する能力に、今、どのくらい自信を感じますか？ (5) \_\_\_\_\_
6. あなたの知っている最も自信のある選手と比べて、あなたが試合の状況に応じて自分を適用させ、尚且つ、うまく競技する能力に、今、どのくらい自信を感じますか？ (6) \_\_\_\_\_
7. あなたの知っている最も自信のある選手と比べて、あなたが競技上の目標を達成する能力に、今、どのくらい自信を感じますか？ (7) \_\_\_\_\_
8. あなたの知っている最も自信のある選手と比べて、あなたが一貫してうまく競技する能力に、今、どのくらい自信を感じますか？ (8) \_\_\_\_\_
9. あなたの知っている最も自信のある選手と比べて、あなたがうまく考え、反応する能力に、今、どのくらい自信を感じますか？ (9) \_\_\_\_\_
10. あなたの知っている最も自信のある選手と比べて、あなたが試合における挑戦に見合う能力に、今、どのくらい自信を感じますか？ (10) \_\_\_\_\_
11. あなたの知っている最も自信のある選手と比べて、あなたが勝ち目がないとしても十分に競技する能力に、今、どのくらい自信を感じますか？ (11) \_\_\_\_\_
12. あなたの知っている最も自信のある選手と比べて、あなたが失敗した競技から立ち直り、うまく競技する能力に、今、どのくらい自信を感じますか？ (12) \_\_\_\_\_

### 3. 【結果及び考察】

STAIの分散分析の結果はTable 7 に示した。

STAI（不安度に対する調査）においては、大学間に有意な差が見られた。Student-Newman-Keuls Test (Table 8) の結果、KB大学（M=51.066）はK大学（M=46.591）とR大学（M=47.188）に対して有意に不安度が高いことが解った。しかし、K大学とR大学ではR大学の方が不安度は高いものの有意な差は見られなかった。また、3大学の選手群と部員群間にも有意な差は見られなかった。

Table 7 STAI by Variable University  
Analysis of Variance

Source of Variation	D.F.	Sun of Squares	Mean Squares	F Ratio	F Prob.	Sig ( $\alpha < 0.05$ )
Between Groups	2	1223.689	611.845	10.456	0.000	S
Within Groups	282	16502.079	58.518			
Total	284	17725.768				

Table 8 STAI by Student-Newman-Keuls test with Significance level 0.05.

Univer	Mean	Grp 1	Grp 2	Grp 3
Grp 1	( 51.066 )			
Grp 2	( 47.188 )	※		
Grp 3	( 46.591 )	※		

( Note )

Grp 1. KB University

Grp 2. R University

Grp 3. K University

SCATについては、3大学間及び3大学の選手群と部員群間にも有意な差は見られなかった。

SSCIの分散分析の結果はTable 9に示した。

SSCIについては、3大学の選手群と部員群間に有意な差が見られ、選手群 ( $M=63.833$ ) は部員群 ( $M=55.599$ ) ( $P<0.001$ ) に対して有意に自信度が高いことが解った。また、大学によって選手群と部員群間に有意な差が見られ、K大学では選手群 ( $M=65.846$ )、部員群 ( $M=55.406$ ) ( $P<0.037$ ) と選手群の方が競技に対する自信度が高い結果が得られたが、KB大学とR大学の選手群と部員群間には有意な差は見られなかった。

Table 9 SSCI by Variable Group  
Analysis of Variance

Source of Variation	D.F.	Sun of Squares	Mean Squares	F Ratio	F Prob.	Sig ( $\alpha < 0.05$ )
Between Groups	1	2453.685	2453.685	12.063	0.001	S
Within Groups	193	39255.986	203.399			
Total	194	41709.672				

以上の結果から、本研究で調査された心理的要素、「不安度と自信度」において、競技直前の不安度は大学間に、競技直前の自信度は選手群と部員群の間には有意な差が見られた。これらのことから考察して、剣道競技においては竹刀を介して自分と相手との一定の間合いの攻防のなかから瞬時に打突が繰り出され勝敗が決定するという競技特性があり、そこには相手との間合い、駆け引き、技術等の判断の誤りによって勝敗が決定することが生じることもある。また、経験的に大会を連覇することが少ないことや勝敗の予測が難しいこと等が競技直前や競技時の不安に関連していると思われ、選手群と部員群間に差が見られなかったのではないかと推察される。更に、選手と部

員では、試合結果の要求水準が異なることも推察される。競技に対する自信度については、部員群は強豪選手に対して負の判断をし易く、逆に選手群は強豪選手に対しても闘志満々な態度で立ち向かう正の姿勢が現れていることは、選手群は部員群に比べて高い精神性を感じられる。このことは、選手群が部員群より身体的能力、技術的能力、試合経験より正しく速い判断力や洞察能力等を身につけているだけではなく、これらを最高に発揮するために必要な心理的条件を備えていると思われる。

#### 4. 【ま と め】

大学剣道選手の心理的相違を検討するために、アメリカでスポーツ心理学研究のために幅広く活用されているState-Trait Anxiety Inventory (STAI), Sport Competition Anxiety Test (SCAT), Sport Self-Confidence Inventory (SSCI) の3種類の質問紙を使用して3大学の剣道選手を対象に不安と自信に関する調査を行い、それぞれの評価尺度からの回答を得た。そして、そのデータの分散分析(ANOVA)の結果、次のような結論が得られた。

- (1) 剣道選手の競技直前の不安度には、3大学間に有意な差が見られた。
- (2) 競技時の不安度には、3大学間及び3大学の選手群と部員群にも差はなかった。
- (3) 競技に対する自信度において、3大学の選手群と部員群間に有意な差が見られた。また、K大学の選手群は部員群に比べ自信度が顕著に高いことが確認された。

以上これらの結果より、本研究で調査された心理的要素、「不安と自信」において大学間・選手群と部員群間には程度の差はあるものの心理的相違が存在することが確認された。

本研究の一部は、日本武道学会第31回大会にて発表した。

## 引用・参考文献

- 1) David, 松本, 武内政幸, 中島 鮎: 日米柔道選手における心理的相違, 武道学研究, 第27巻, P61, 1995
- 2) 遠藤純男, 飯田穎男, 武内政幸, 上口孝文: 柔道選手のあがりの因子分析的研究, 秋田経済法科大学経済学部紀要, 第6号, 37-43, 1987.
- 3) 船越正康: 柔道とスポーツ心理学の接点, 講道館, 柔道, 第5巻, 第5号, 26-28, 1988.
- 4) 船越正康: ソウルオリンピックとメンタルサポートー柔道の場合ー, コーチング・クリニック, Vol3, No1, 31-33, 1989.
- 5) 船越正康: 柔道とメンタルトレーニング, 講道館, 柔道, 第64巻, 第2号, 48-1, 1993.
- 6) 船越正康: 柔道に関する勝利達成条件研究(1)ー質問票の作成と基礎分析ー, 武道学研究, 第27巻, P65, 1994.
- 7) 船越正康: 柔道における武道とスポーツ, 講道館, 柔道, 第67巻, 第1号, 70-72, 1996.
- 8) 飯田穎男: 松浦義行編, スポーツの科学, 朝倉書店, 131-142, 1985.
- 9) 猪俣公宏: 競技におけるメンタルトレーニング, 福島県スポーツ医科学研究会会報, No.3, P1, 1992.
- 10) 金木 悟: 大学剣道選手の性格特性とあがりの一考察, 武道学研究, 第16巻, 第1号, 44-6, 1983.
- 11) 小森富士登, 飯田穎男, 武内政幸, 中島 鮎, 馬場欽司: 西ドイツにおける剣道に対するイメージの研究, 武徳紀要, 第7号, 103-120, 1990.
- 12) 小森富士登, 飯田穎男, 武内政幸, 中島 鮎: 本学学生の剣道に対するイメージの因子分析的研究, 武徳紀要, 第9号, 61-83, 1993.
- 13) 中島 鮎, 小森富士登, 飯田穎男, 松浦義行, 武内政幸, 若山英央, 森脇保彦: 不安度, 自信度に関するの因子分析的研究, 武徳紀要, 第14号, 77-108, 1998.
- 14) R, マートン, (猪俣公宏監訳): メンタルトレーニング, 大修館書店, 1991.
- 15) 佐藤成明: 大学剣道部員の性格特性について, 武道学研究, 第17巻, 第1号, 6-7, 1985.
- 16) 佐藤成明: 大学剣道部員の性格特性について, 武道学研究, 第18巻, 第2号, 23, 1986.
- 17) 佐々木武人, 柏崎克彦, 藤堂良明, 村田直樹: 現代柔道論, 大修館書店, 1993.
- 18) 高岡英夫: アガリを克服するー武道の伝統に見るアガリの考え方と方法ートレーニングジャーナル, Vol13, No143, 20-3, 1991.
- 19) 高妻容一: スポーツ心理学の武道への応用, 武道学研究, Vol22, No.1, 56-7, 1988.
- 20) 高妻容一, 岡田龍司: メンタルトレーニングの柔道選手への応用, 武道学研究, 第25回大会号, P55, 1992.



- 21) 武内政幸, 石塚繁美, 波多野伸, 中間和男: 本学運動部学生のあがりの因子分析的研究, 大東文化大学体育センター研究報告, No.2, 1-13, 1989.
- 22) 武内政幸, 小森富士登, 中島 隼, 中間和男, 若山英央, Davit, Matsumoto: 大学柔道選手と剣道選手の心理的相違. 大東文化大学紀要, 第36号, 199-214, 1998.
- 23) 氏家道男: 全日本剣道選手権大会上位入賞者の性格特性, 武道学研究, 第21巻, 第2号, 3-4, 1988.
- 24) 氏家道男, 太田昌孝, 右田重昭, 古谷洋一, 小森富士登: 剣道選手の性格特性 - 全日本剣道選手権大会優勝者の場合 -, 体育・スポーツ科学研究, 第2号, 13-18, 1997.